

ゆび募金 だより



No.

9

会報 第9号





コープビル管理会

コープビル管理会
所在地：東京都千代田区内神田1-1-12
事業内容：ビル管理・運営



コープビルは農林水産業協同組合全国連の共同ビルとして竣工したビルで、コープビル管理会は、この土地・建物の維持管理を共有団体共同で行うため、昭和47年に設立された任意団体です。

ゆび募金の寄付先を選んでいる「公益財団法人漁船海難遺児育英会」は、漁業従事中の事故や災害で犠牲になられた方々の遺された子どもたちへの奨学金制度を行っている団体で、この事業を支援するため、ゆび募金活動に参加しています。

公益財団法人 漁船海難遺児育英会

【設立】昭和45年
【代表】理事長 鈴木 俊一

遺された子どもたちの修学を支える

漁業は、大自然を相手とする厳しい仕事です。関係者はみな事故防止に最大限の努力を払っていますが、一方で尊い人命を失う事故や災害も後を絶ちません。一家の大黒柱を失った家族には大きな負担がかかり、中でも子どもの養育問題は大きな悩みになっています。

育英会は、遺された子どもたちが安心して学校に通えるよう、就学上必要な事業（学資の給与・奨学金の貸与）を行い、将来社会に役立つ人材となることを願い、併せて漁業経営の安定に寄与することを目的としています。

幼児から大学生まで一貫した支援

設立当初は「せめて給食費程度でも」と小・中学生に対する学資給与制度からスタートしましたが、現在では幼児から大学生等まで一貫した育英事業が整備されました。

東日本大震災では、津波により漁業・漁村が壊滅的な被害を受けるとともに、多数の漁業関係者が犠牲となり、被災遺児70名あまりが本会奨学生となりました。

主な事業

- ① 幼児～高校生等に対する学資の給与
- ② 大学生等に対する奨学金の貸与
- ③ 入学および卒業時の記念品贈呈
- ④ 機関紙・文集の発行、交流活動等



街頭での募金活動



小さなクンをキャラクターにしたポスターで周知を図っています



左：コープビル管理会 山下裕二常務理事
右：漁船海難遺児育英会 鈴木基之専務理事

これまでの皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。制度の維持・改善・充実のためには、これからもより一層の努力が必要と考えております。皆様のご支援をなにとぞよろしくお願いいたします。



特定非営利活動法人 日本障害者スキー連盟



【設立】平成13年
【代表】会長 伊佐 幸弘

競技体制の統合化を目指し連盟を設立

1998年の長野パラリンピックを契機に、障害者の競技スポーツの体制作りが進められるようになりました。障害者スキーでは、従来、肢体・視覚・聴覚・知的など異なる障害別に組織化されていた各団体を母体として、2001年に日本障害者スキー連盟を設立、2003年にNPO法人となりました。

連盟では、パラリンピック冬季大会に向けて世界で戦える日本選手の強化育成はもとより、日本国内における障害者スキーヤーの育成、障害者スキーに対する理解促進、指導者の養成、国内各種スキー団体との連携・協力など様々な事業を行っています。

公平な条件で勝負するためのルール

障害者スキーは、斜面を滑走するアルペンスキー、雪原のマラソンといわれるクロスカントリースキー、クロスカントリーに射撃を取り入れたバイアスロンなどさまざまな種目がある中で、障害の種類によって「座位」「立位」「視覚障がい」にカテゴリー分けされています。また、同じカテゴリー内でも障害の程度の重い・軽いによって不公平が生じないように、実際のタイムに障害の程度に応じた係数をかけた計算タイムで順位を決定します。

ソチパラリンピックでは6個のメダルを獲得!

3月にロシアで開催されたソチパラリンピック冬季大会では、日本人選手はアルペンスキー、クロスカントリー、バイアスロンに出場し、金3個、銀1個、銅2個の合わせて6個のメダルを獲得しました。

11回目となるソチパラリンピック冬季大会には、前回は上回る5競技72種目に、692人の選手が参加しました。今大会からアルペンスキー競技にスノーボードクロスが正式に採用されるなど、種目数が増えただけではなく、さらに各国選手の競技力が向上し、日本選手も世界で戦うためには、一層のトレーニング環境の整備が必要だと感じています。



メダルを獲得した日本選手たち（左から 敬称略）
（森井大輝(銀) 鈴木猛史(金銅) 狩野亮(金×2 久保恒造(銅)）



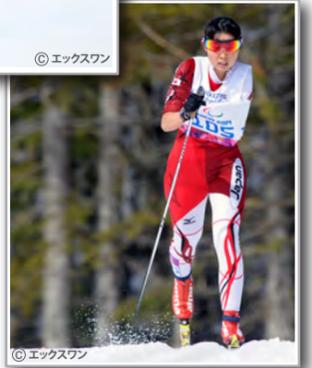
クロスカントリー/バイアスロン
久保恒造選手



アルペン
選手
スキー



アルペン
選手
鈴木猛史



クロスカントリー/
バイアスロン
選手
阿部友里香

広域避難者支援基金 寄付先団体活動報告

昨年設立した広域避難者支援基金の寄付先3団体について、最近の活動をご報告いたします。
新潟県長岡市の「東日本大震災ボランティアバックアップセンター」は、活動の縮小に伴い、ゆび募金からの寄付を終了することになりました。同じく新潟県から「ふりっぷはうす」が、新たな寄付先に加わりました。

新潟県避難者交流施設 ふりっぷはうす

福島からの避難者は新潟県内に約4500名。
新潟県避難者交流施設「ふりっぷはうす」は新潟市内に位置し、避難者が頻繁に訪れる温かみのある交流施設です。
新潟県内の避難者支援活動の中心的施設として、避難者同士の連携と情報共有のための相互交流事業を行っています。



NPO法人 IVY (アイビー)

2012年9月山形市に開園した、福島からの避難家族のための「あいびい保育園」。多くが母子避難で、避難の長期化・二重生活により経済的困難を抱える家族の就労を支援し、生活の安定化を図っています。

開園からもうすぐ2年。保育士間のチームワークも取れ、保育プログラムも充実してきました。保護者会が設立され、保護者同士の交流や保育士との信頼関係などにより、避難家族の精神的支えとしても、大きな存在となっています。

NPO法人 こどもプロジェクト

東京で避難生活を送る子どもたちのために、学生ボランティアが学校の授業の補習をしています。遊び時間もあり、子どもたちの楽しい居場所となっています。保護者のための保育つき料理教室や、プロ野球選手による野球教室などのイベントも行っています。

長期化する避難生活の中でストレスを軽減し、地域と交流できる機会となっています。保護者も学習支援という参加率が高まり、この活動で信頼関係を構築し、新たなニーズや課題の抽出に役立っています。



NPO法人
こどもプロジェクト

編集後記

東日本大震災から3年が経ちましたが、最近寄付が集まりにくくなっているようです。支援活動をしていたNPOやボランティア団体の中にも、やむを得ず活動を縮小・終了するところが増えてきています。あれだけの災害であっても人々の関心は薄れていってしまうものなのか…と考えると、継続的に支援していくことの難しさを感じます。ゆび募金は、継続的に寄付を行い、関心を持ち続けるという支援をお手伝いしていきたいと思っています。

最後に、会報第9号の作成にあたり、ご多忙の中ご協力を賜りましたロケオーナー様、寄付先団体様に心より御礼申し上げます。

(青木)

ゆび募金だより 会報第9号

発行日：2014年6月1日

発行：特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会

〒186-0004

東京都国立市中1-18-41 栄ビル301

TEL: 042-571-2233

FAX: 042-571-2263

Eメール: info@jkkyoukai.com

URL: http://jkkyoukai.com/